M. 呼吸器外科(指導責任者 岡阪 敏樹)

【到達目標】

呼吸器、胸部一般にわたる外科診療に関する診断、諸検査の手技および手術適応のプロセスを理解する。また知識、手技ばかりではなく悪性腫瘍患者に対してオンコロジストとして適切に説明し、信頼関係を構築できることが必要である。到達目標 B「資質・能力」1~9項目を達成するとともに、到達目標 A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)を身に付け、到達目標 C 基本的診療業務ができるようにする。

【行動目標 Specific Behavior Objects: SBOs】

1. 診療姿勢

- 1) 医療安全、患者の人権および価値観への配慮し、病院理念を遂行できる全人的医療の視点を失わない診療態度を身につける
- 2) 他の職種と意思疎通を図り、チーム医療を実践できる
- 3) 診療記録を適切に作成し、管理できる

2. 診断法及び検査法

- 1) 胸部レントゲン、胸部 CT、PET の画像を判読できる。
- 2) 気管支鏡検査の適応判断ができる。
- 3) 呼吸機能検査、血液ガス検査の解釈ができる。
- 4) 胸部 CT 下肺生検、腫瘍マーキングの適応判断ができる。
- 5) 胸部異常陰影に対する診断アプローチと治療方針を立てることができる。
- 6) 胸腔穿刺の適応判断および実際の手技、さらに診断結果を解釈できる。

3. 治療法

- 1) 呼吸器外科領域の疾患を充分に理解しその手術適応を判断できる。
- 2) 呼吸器外科疾患に対し適切な開胸アプローチを選択でき、開胸、閉胸時の助手を行うことができる。
- 3) 胸腔ドレナージ術の適応、判断ができ実施できる。
- 4) 胸部外傷の迅速な処置(気道確保、呼吸循環管理、気管支鏡、胸腔ドレナージなど)および手術適応の判断を立てることができる。
- 5) 胸腔鏡下および開胸下での肺部分切除術を行うことができる。
- 6) 胸腔ドレーン管理を適切に行い、抜去することができる。
- 7) 肺切除後の術後管理を適切に行うことができる。
- 8) 患者に対し、個々の背景を考慮して適切に診断、治療方針、予後を伝えることができる。

4. 経験すべき症状・疾患、

または経験しなくても十分な知識を習得する必要のある呼吸器外科疾患

- 1) 下記の頻度の高い症状を経験し、適切に対応できる 咳、痰、発熱、呼吸困難、胸痛、ショック、終末期の症候
- 2) 気管・気管支疾患

(腫瘍、結核、気管支拡張症、気管・気管支異物)

3) 肺疾患

(肺分画症、肺動静脈瘻、肺嚢胞症、気胸、肺結核症・非定型抗酸菌症、肺真菌症、肺化膿症、硬化性肺血管腫、肺血栓塞栓症、びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、肺炎)

4) 肺腫瘍

(原発性肺癌、転移性肺腫瘍、その他の肺悪性腫瘍、肺良性腫瘍)

5) 縦隔疾患

(縦隔嚢胞、胸腺腫、縦隔炎、縦隔気腫、神経原性腫瘍)

6) 胸膜疾患

(膿胸、胸膜腫瘍、乳び胸)

7) 胸壁•横隔膜疾患

(胸郭異常、胸壁の炎症、胸壁腫瘍、横隔膜ヘルニア)

8) 胸部外傷

(肋骨・胸骨骨折、外傷性血胸・気胸、肺挫傷)

【方略: LS】研修指導体制と週間スケジュール

- 1) オリエンテーション 第1日目 8:30より病棟(呼吸器センター)にて
- 2) 病棟研修
 - ①指導医のもと入院患者を副主治医として担当する。
 - ②呼吸器科との合同検討会、術前・術後カンファレンスで症例提示する。
 - ③指導医のもと読影、診断、治療方針の決定を行う。
 - ④病棟回診に参加し、指導医のもと処置、治療を行う。
- 3) 手術研修
 - ①指導医のもと担当患者の手術に助手として参加する。
 - ②指導医のもと担当患者の術後管理、処置に参加する。
- 4) 救急研修
 - ①指導医のもと救急入院患者の診療に初期対応する。
 - ②その後の必要な処置・手術にも携わる。
- 5) 講義 白習
 - ①原発性肺癌の病期分類、治療戦略、手術適応
 - ②病理組織学的診断
- 6) 抄読会への参加

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
早朝	病棟 ICU				
午前	回診・病理	回診 手術	回診・病理	外来	回診 手術
午後	外来	手術	手術検討会	抄読会	手術
夕刻	回診	回診	回診	*検討会	振り返り

*検討会: 呼吸器科と放射線科の合同カンファランス (隔週)

【評価 Evaluation】

自己評価後、指導医の評価を受け、評価システム PG-EPOC を利用して臨床研修委員会に 提出する。

チェックリスト 呼吸器外科

チェックリスト							呼吸	器外科
知識・手技		経験数		評価				
和 3.4 于仅	標			十分	不十分			
病歴聴取•身体所見	5		例					
胸部X線、CT、PET像	20		例					
胸腔鏡下肺のう胞切除	3		例					
胸腔ドレナージ	3		例					
開胸•閉胸術	5		例					
肺部分切除	3		例					
経験すべき症状				完ぺき	後少し	知識だけ	まだまだ	レポート 提出
咳	3		例					
胸痛	3		例					
呼吸困難	3		例					
痰	3		例					
経験すべき病態								
気管・気管支疾患	1		例					
肺疾患(気胸、肺のう胞 症)	3		例					
肺腫瘍	3		例					
縦隔腫瘍	1		例					
胸膜疾患			例					
胸壁•横隔膜疾患			例					
胸部外傷	1		例					